

シグマ委員会拡大幹事会議事録

日時：昭和42年5月30日(火)午後1時半—5時
場所：(東京)日本原子力発電会社本社会議室
出席者：立花，飯島，田上(寺沢代)，小林(岩城代)，五十嵐
議題：核データセンター設置要望書作成

- 1 外部利用者からの「核データセンターの必要性和構想の私案(五十嵐)」に対する支持の文書を下記の骨子に沿って作成する。
 - i) 具体案：原子力時代に入りつつあること。
軽水炉，高速炉，転換炉
 - ii) 既存のデータの有用性に問題があること。
 - iii) 国産化段階に入れば設計上でこれらの問題が具体的に問題になること。
 - iv) メーカーのみでなく発電所の運転者にとっても核データの重要性は今後急速に増大する可能性があること。

粗稿は出来るだけ早い時期に立花氏が作る。

- 2 学会企画委員会の承認を得る件は39年12月8日のメモに「センターを原研に設けることに積極的に賛成する」の記があるので，再び提出することは問題がありそうである。これは主査と安，岩城両企画委員と良く相談したうえで決定することになった。

(五十嵐註，39.12.8のメモには「センターを原研に設けることに関して学会としての正式な見解を表明する必要がある」とあるが，この件のその後の事が不明である。又，「学会としてどう言う援助をしたら良いかを次回到員会に提出」とあるがこれについても不明。いずれにしても学会企画委員会の議事録を調べる必要がある)

- 3 核データセンターの構想案に対する意見

- i) シグマ委員会内部での説明には提出案の図のようなもので良いが、局や理事者に対してはもっと簡単にした方が良いのではないか。
- ii) センター要員には常駐の職員の外に流動研究員制度のようなものを考え、常に fresh な気持で作業が出来るようにせよ。
- iii) Library 作成作業まで含むように明記した方が通りが良い。

4 雑談的意見

- 学術会議の支持をもらう必要があるのではないか。
- 原研内部の態勢を固めよ。
- センター設立は原研理事長の裁断によるのか？
- 理事会などの予算権を持っている所に働きかけを行なう必要がある。
- 文書だけで片づく問題ではない。
- 原研内部で認めさせるのが先決。
- 部長の熱意はどうか？願望だけではだめだ。
- 原研内部の野党的立場の者を集めて説明会を開き、文句を言うだけ言わせれば本番で反対する者もなかりう。
- 外部のおえら方に push してもらうことを企画せよ。主査が企画を作るのが良い。
- 正攻法の線はきちんと踏み、外部工作は別に行なえ
- 正攻法としては、これまでの議事録を見て学術会議への働きかけとか、学会の方への働きかけをどうするかを検討すること。